

広島県備北地区 認知症連携拠点医療機関

三次神経内科クリニック 花の里 季刊誌**Vol. 2 2014. 春号****— ご挨拶 三次神経内科クリニック花の里 院長 伊藤 聖 —**

今や認知症は「国民病」とも言われ、今後も増加し続ける事は間違いなく、家族だけで支えるには限界があります。過去において認知症対応は介護分野の領域的な認識にありましたが、現在は一つの病気として治療薬も数種類開発されており、誰もが知っている病気であると言っても過言ではありません。医療機関が核となり介護、福祉などとしっかりと連携をはかり、お互いに情報を交換、共有しながらいかにして支えて行くかを考えていく必要があります。また、在宅生活継続の最大のポイントは「認知症の人（本人）の居場所、居心地の良さの確保」です。介護する側とされる側の関係は様々で、絶え間なく続けられる介護を支援する中で多少でも介護負担を軽減出来れば介護側の気持ちの“ゆとり”が生じてきます。家族を含め認知症の人を取り巻く環境のあり方が在宅での居心地の良さを左右します。

私達、医療機関が患者様のみでなく、介護する家族の精神的な支えになる必要があります。実際にできることは限られているのが現状ですが、今後もより一層の努力と工夫を行うべく取り組んでまいります。皆様には引き続きご協力を賜りますよう、宜しくお願い致します。

— 実績報告 H25年4月1日~H26年2月28日 —

認知症について何でも気軽
にご相談ください。
お待ちしております。

看護師 武内



- 初 診 件 数 : 396 件
- 電話による相談件数 : 118 件
- 面談による相談件数 : 450 件

— 広島県認知症連携パスについて —

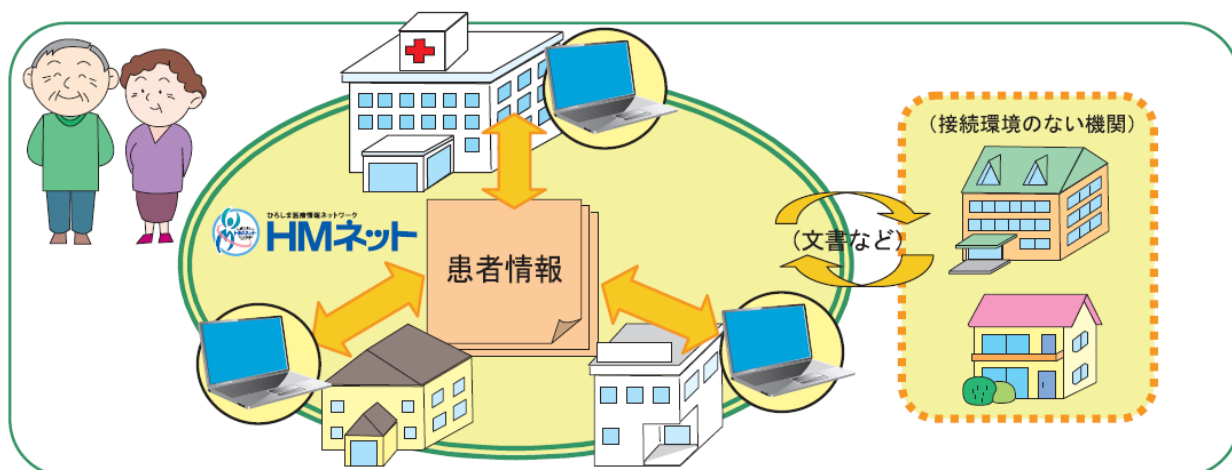
現在、県内いくつかの地域で独自の認知症連携パスが運用されています。これらは、認知症患者の方々への適切な医療・介護サービスにつなげるため、関係機関の情報共有を目的として実施されています。今回、この認知症連携パス（オレンジパスポート）を各県内の認知症疾患医療センター等を中心として、広島県全体で共通に利用していくこととなりました。それに伴い、当院もパスポート発行機関のひとつとして連携が関わってまいります。また、この患者情報は紙媒体によるパスのみでなく、(社)広島県医師会が運営するインターネットのネットワークシステム『ひろしま医療情報ネットワーク(HMネット)』のネットワークを活用し、情報共有をおこなっていきます。

□認知症地域連携パス（「ひろしまオレンジパスポート」）とは

「ひろしまオレンジパスポート

（広島県認知症地域連携パス）」は、地域生活を支える医療・介護機関が、治療経過や日常生活の変化などの情報を共有することで、症状に応じた適切なケアなどにつなげ、ご本人とご家族が、地域でおだやかな安心して暮らしを支えるためのパスポートです。

医療機関や介護サービスを利用される際に、本人情報を参考にして、ご本人の状態に合った医療・介護サービスの提供へとつなげていくとともに、新たな情報の提供・共有が繰り返し蓄積されることで、切れ目のない状態の把握や、症状の変化への早期対応などに役立てられます。



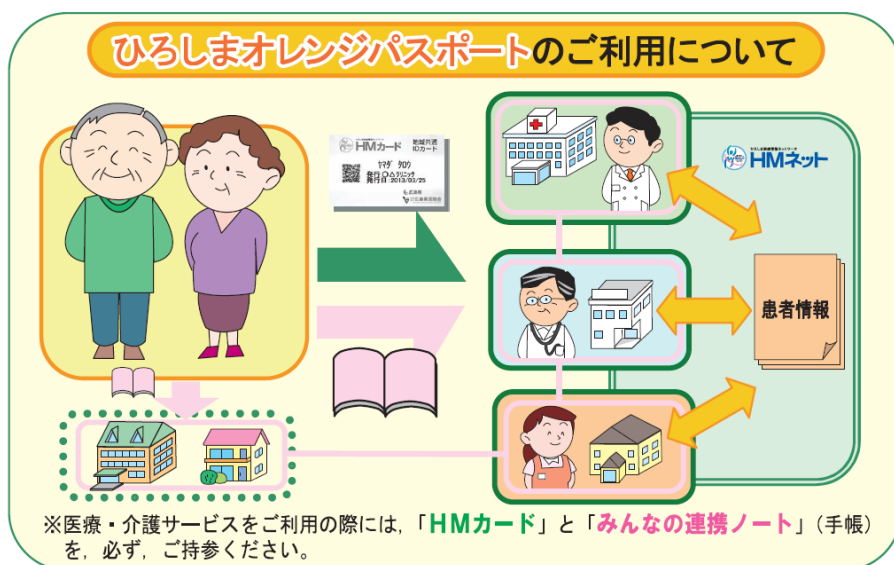
「ひろしまオレンジパスポート」の患者情報は、(社) 広島県医師会が運営するインターネットのネットワークシステム『ひろしま医療情報ネットワーク』(HM ネット)内で共有されます。県内の病院や薬局などの関係機関が、インターネットを通じてつながり、登録・閲覧されます。HM ネットを利用することで、ご本人の診療情報などを電子情報として蓄積し、治療等に役立てるとともに、情報紛失防止などのご本人家族の利便性を高めるなどのメリットがあります。

(HM ネット利用のメリット)

- ◎電子情報として蓄積されますので、ご本人家族等が「文書」を保管する必要はありません。また、失くしてしまい、それまでの情報が無くなる心配もありません。
- ◎県内全域を対象としたネットワークシステムですので、居住地域や利用機関が変わっても、引き続き登録された情報を治療やケアに役立てることができます。

ご利用方法

「ひろしまオレンジパスポート」は、ご本人に発行される専用カード (HM カード) を関係機関に提示 (閲覧同意) することで、担当医や介護スタッフが、インターネットを通じて、ご本人の登録されている情報を確認したり、新たに登録して情報を共有します。あわせて、日常状態などの連絡のための「情報共有連絡票」では、インターネットでの登録・共有のほか、ご家族等用に「みんなの連携ノート」で情報共有などをおこないます。ご本人のプロフィールや検査・診断結果、治療の経過などの情報は「HM ネット」にて共有され、体調、治療の効果や影響などの情報は、「みんなの連携ノート」にて共有されます。そのため、医療・介護サービスをご利用の際には、「HM カード」と「みんなの連携ノート」をご持参ください。



※オレンジパスポート、HM ネットの利用はご本人およびご家族の同意のもとにおこないます

医療機関・介護機関の皆様へのお願い

ご家族より、この手帳の提示・情報共有の協力依頼があった際は、手帳(「みんなの連携ノート」)に記入して、ご本人の様子などをお知らせください。ご協力、よろしくお願い致します。



研修会を実施しました



2014年3月27日(木) 18:45から三次市十日市西のみよしまちづくりセンター ペペラホールにて、三次神経内科クリニック主催の研修会を実施しました。今回は、医療法人 知仁会 メープルヒル病院 広島県西部認知症疾患センター センター長・神経内科部長 井門ゆかり先生をお迎えし、「認知症早期発見のポイントと認知症疾患医療センターの活動」についてご講演をいただきました。認知症の早期発見・早期治療の意義として、治る病気の可能性や治療により良い経過をたどる可能性、本人・家族でいろいろな準備をする時間ができることなどをあげられました。また、早期発見の方法として、井門式認知機能スクリーニング検査 (Imon Cognitive Impairment Screening) を紹介してくださいました。他にも、メープルヒル病院の紹介やフランス発の認知症ケア、「ユマニチュード」の紹介もしてくださいました。

当日は、講演会前に平成26年4月より県内の認知症疾患センターを中心に導入される認知症地域連携パス(ひろしまオレンジノート)およびHMネット(ひろしま医療情報ネットワーク)について、当院臨床心理士 伏川より説明をさせていただきました。



— 認知症連携拠点医療機関(認知症疾患医療センター) 受診の流れ —

相談

ご本人様、家族、関係機関からの相談に専門相談員が対応し、必要に応じて受診予約をおこないます

初診

日常生活状況や症状についての問診をおこないます
(例) 日々のご様子、介護サービス利用状況、服用している薬、既往歴 など

検査

問診をもとに、医師が必要と判断した検査を受けていただきます
(例) MRI・CT、神経心理学検査、血液検査、尿検査 など

再診

問診や検査結果をもとに認知症の有無や進行の程度、原因やタイプなどの鑑別診断をおこない、今後の治療方針について説明をおこないます

認知症相談専用電話窓口を
設置しております

【時間】 9:00~12:00・14:00~17:00

【電話】 0120-870-318

(相談窓口専用電話)

※看護師、臨床心理士等が対応致します

医療法人微風会

三次神経内科クリニック花の里

〒: 728-0013

広島県三次市十日市東4-3-10

TEL: (0824) 63-0330

FAX: (0824) 63-0331